

福島県農林水産業振興計画指標の見直し等について

1 見直しの概要

(1) ももの取引価格 (No.32)

年度別目標値および最終年度（令和 12 年度）目標値を達成したため目標値の変更（上方修正）を行う。

(2) 避難地域 12 市町村の農業産出額 (No.5)

避難地域 12 市町村農業の復興・創生に向けたビジョン策定（令和 6 年度）に伴い、指標の変更（取り下げ・追加）を行う。

2 見直しを行う指標

(1) ももの取引価格 (No.32)

ア 指標の定義 東京都中央卸売市場における福島県ももの平均単価（円/kg）

イ 現 況 (円/kg)

	R5	R6	R7	R12
目標値	514	527	539	589
実績値	627	672	698	－
(目標対実績)	122%	128%	129%	－

ウ 達成状況

(ア)年度別の目標値を達成(29%上振れ)し、(イ)令和 7 年度の実績値は振興計画目標年度(令和 12 年度)の目標値(589 円/kg)を上回っている。

エ 目標値 (円/kg)

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
見直し前	502	514	527	539	549	559	569	579	589
見直し後	502	514	527	539	<u>742</u>	<u>786</u>	<u>830</u>	<u>874</u>	<u>917</u>
(差異)	±0	±0	±0	±0	<u>+193</u>	<u>+227</u>	<u>+261</u>	<u>+295</u>	<u>+328</u>

オ 見直しの理由等

前項ウの達成状況（(ア)、(イ)）から指標見直しの対象となる。

今後も従来目標値以上の取引価格水準が見込まれることから、直近年（令和 3 年～ 7 年）の価格動向を基に令和 12 年度までのもも取引価格を推計して算出し、目標値の上方修正を行う。

(2) 避難地域 12 市町村における農業産出額 (No.5)

ア 変更内容 指標の取り下げ及び追加

[取下]避難地域 12 市町村における農畜産物及び加工品の年間産出額

[追加]避難地域 12 市町村における農業産出額

※ 指標の取下・追加については令和 7 年度第 1 回農業振興審議会におい

て承認済み。今回は詳細調整中としていた積算内容や単年目標値等の詳細事項について報告を行うもの。

イ 指標の定義 避難地域 12 市町村の農業産出額

ウ 指標の内容

「避難地域 12 市町村農業の復興・創生に向けたビジョン」（以下、ビジョンという）策定に伴い、R7 から指標を見直すもの。

各年の目標値については、ビジョンに定めた各品目別の営農再開面積の目標及び産出額目標を基に、野菜の広域産地化による生産増加、大規模復興牧場の新設による生乳及び子牛等の販売額増加の影響などを考慮して設定した。

エ 目標値

(億円)

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	－	－	213	231	246	257	266	274
実績	179	－	－	－	－	－	－	－

3 その他

「No.3 森林整備面積」の見直しを予定しており、別途森林審議会において協議しておりますので、参考までにお知らせいたします。詳細は別添の資料を参照願います。

《参考》

● 見直しの分類及び見直しを行う目安

(1) 目標値の変更

①年度別の目標値に対して「20%上振れ」・「50%下振れ」、または②振興計画目標年度（令和 12 年度）の目標値の達成を目安とし、適切な目標値への変更を行う。

(2) 指標の取り下げ及び追加

既存の指標について、従来出典としていた統計調査より精度の高い調査が開始された等により、既存の指標を取り下げし、新たな指標を追加する。

（指標の取り下げを行う場合は、施策や政策の成果を測定する代替りの指標と入れ替えることが原則となる。）

※（1）（2）のいずれも、県の最上位計画である福島県総合計画の指標見直しにかかる考え方を参考とする。

福島県農林水産業振興計画

指標値（森林整備面積）の見直しについて

令和 7 年 1 1 月 2 8 日

森 林 整 備 課

1 見直しする理由

現指標である森林整備面積は、原発事故以降、放射性物質の影響から大きく落ち込み、その回復に向けてふくしま森林再生事業などにより間伐を中心とした施業を実施してきた（資料 2－2）。

近年、終戦直後や高度経済成長期に造林された森林資源が充実するとともに、新たな大型製材工場の稼働・計画等により県産材の需要が拡大していることから、主伐による素材生産量が増加傾向にあり、主伐の対象範囲は、これまで森林整備面積に含めていた高齢林（51～60 年生）の間伐まで拡大することが見込まれる（資料 2－3）。

このため、県産材の供給拡大と次の世代となる森林の適正な維持に向け、これまでの間伐中心の施業から、再造林を含む人工造林の強化へと転換を図ることとし、森林整備面積全体の目標値を見直す。

2 新たな目標値について

森林整備面積の現行の推移と新たな目標値（単位：ha）

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
現・目標値 ^a	6,200	6,300	6,500	6,700	7,000	7,200	7,400	7,600	7,800	8,000
実績 ^b	5,857	5,325	4,754	4,583	－	－	－	－	－	－
達成率 (b/a)	94%	85%	73%	68%	－	－	－	－	－	－
新・目標値	－	－	－	－	4,700	5,000	5,200	5,500	5,800	6,100

※森林整備面積は「人工造林」「下刈り」「除伐」「間伐」等の施業面積の合計（主伐は含まれない）。

3 主な見直し点（資料2－4）

現目標値の森林整備面積全体を検討する際、森林整備面積を構成する「人工造林」、保育に係る「下刈り」、「除伐」、「間伐」、の施業別の内訳推移を分析しており、その中でも今回の見直しに関して影響の大きい「間伐」及び「人工造林等」については、以下のとおり。

（1）間伐面積

主伐対象林齢の拡大に伴い、間伐対象割合が減少することから、間伐面積を現目標値から半減とする。（R12 ⇒ 現目標値の53%）

（2）人工造林等面積

主伐後、再造林を着実に進めていく必要があるが、全国的な課題として、主伐収入で造林費用が賄えないことや林業従事者の減少から再造林が進んでいない。さらに本県は、放射性物質の影響から森林経営意欲がより減退したことで再造林は低位に留まっており、R7の森林整備面積全体の現目標値7,000haを実情に合わせて4,700haに見直しを行う必要が生じていた。

しかしながら、森林資源の循環利用に向けて、再造林を含む人工造林については、省力化や低コスト化を図りながら、現目標値の1.5倍を目指す。

（R12 ⇒ 現目標値の152%）

4 参考（森林・林業を取り巻く状況）

（1）木材需要の高まり（資料2－5）

林業産出額や民有林素材生産量は震災前の実績を上回っている。

（2）木材関連施設の稼働状況（資料2－6）

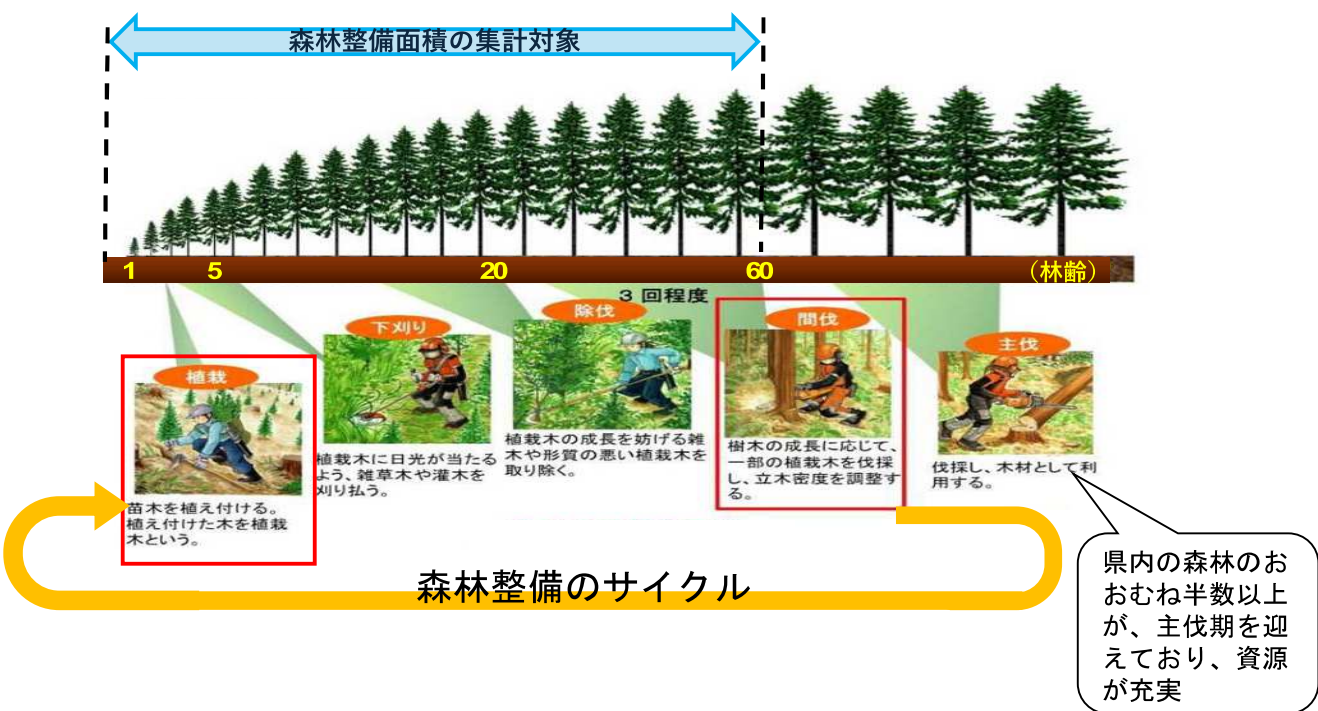
大型製材工場の新設、バイオマス発電施設の稼働状況から、今後も継続的な木材需要が見込まれる。

（３）国・県の新たな施策展開

花粉発生源対策、県カーボンニュートラル条例の制定から森林の若返りに向けた対策が強化されている。また、全国森林計画が主伐量増加・間伐量減少傾向で見直しされている。

森林整備にかかる施業内容と施業時期

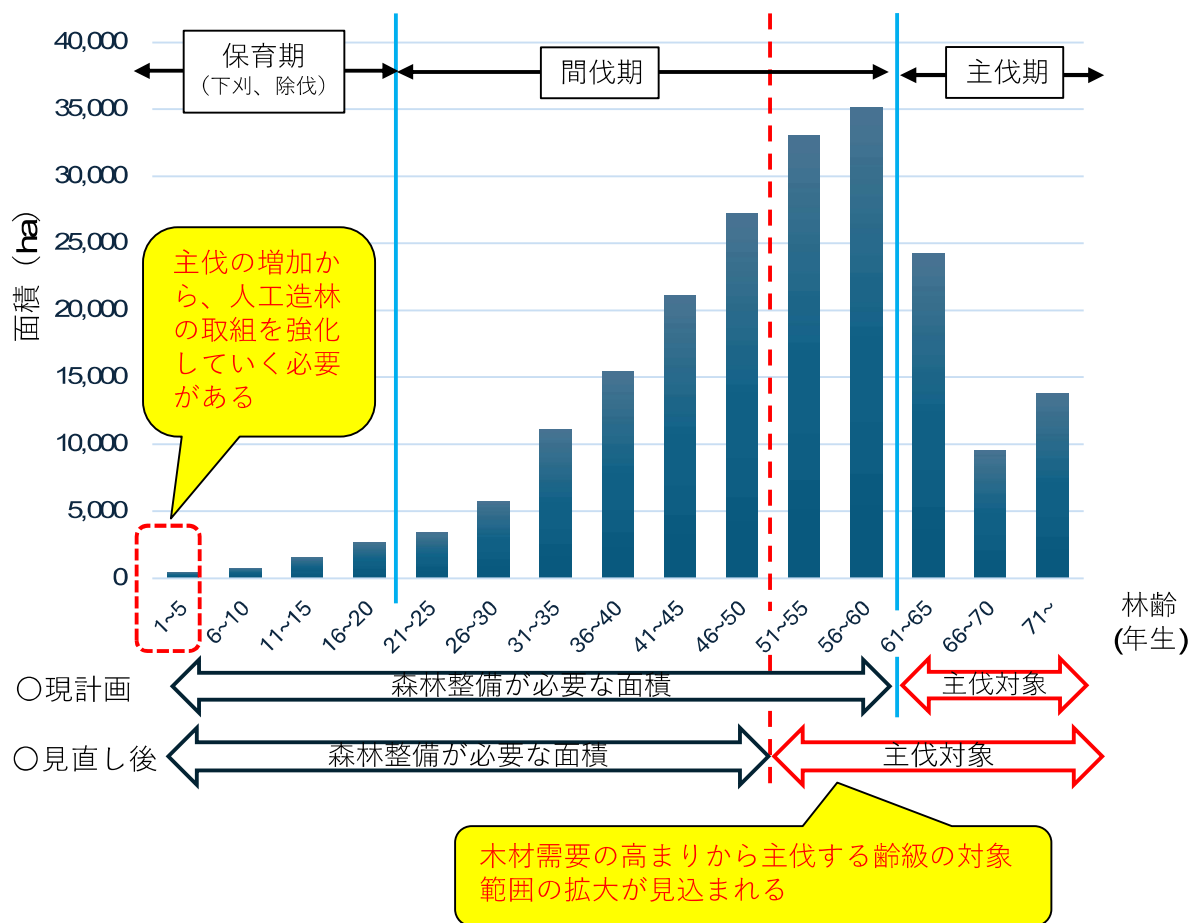
- ◆森林整備面積は
- 1 森林の適正な管理を推進していくための指標
 - 2 県内の民有林の人工林等において12齢級（60年生）までに行う「人工造林（植栽）」「下刈り」「除伐」「間伐」等を単年度に実施した面積を合計した値。
 - 3 主伐（立木を全て伐採して木材生産を行う）は含まれない。



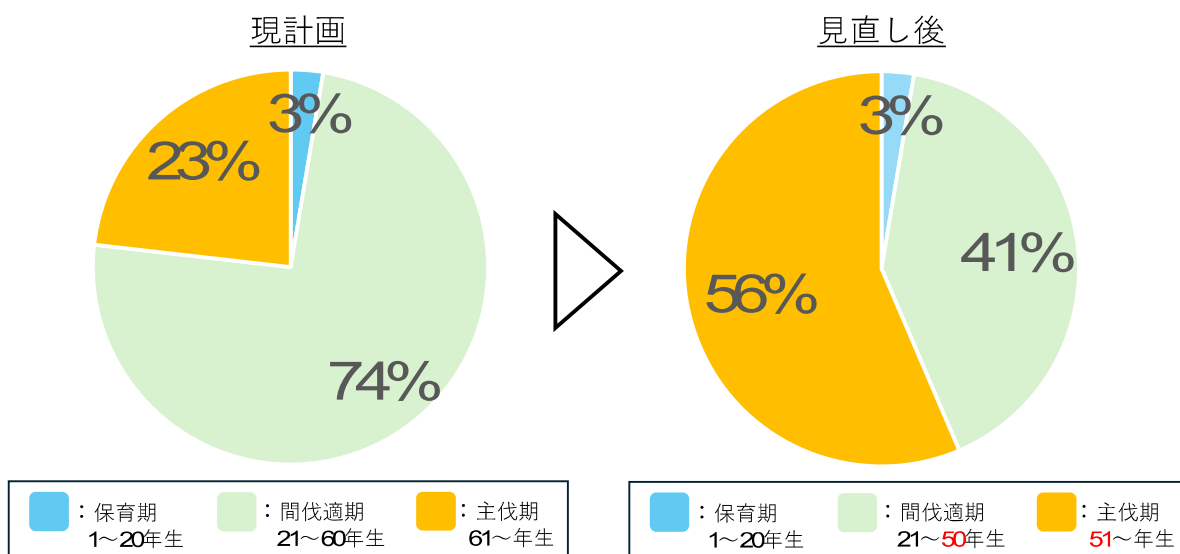
森林資源の循環利用



県内人工林の林齢別面積（H30）

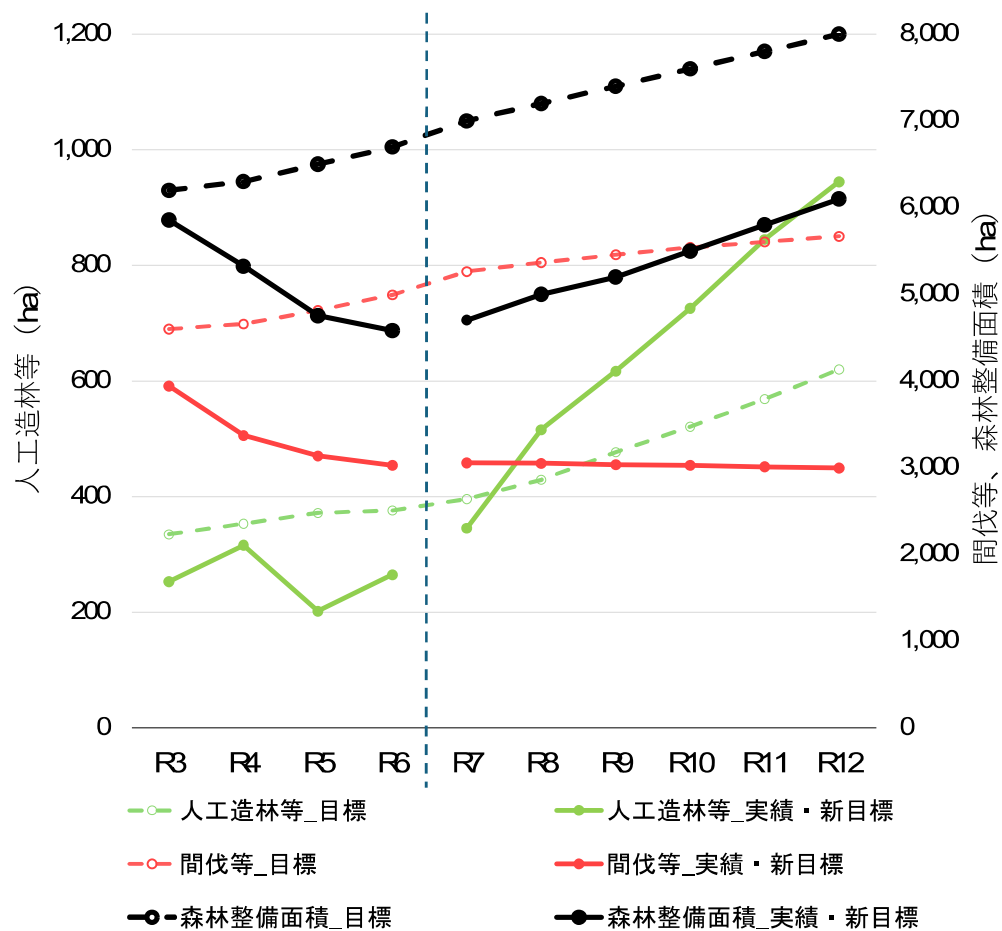


県内人工林の保育・間伐・主伐の割合



森林整備面積実績等の推移

資料2-4



- ・人工造林等：人工造林、樹下植栽、不用萌芽除去
 - ・間伐等：保育間伐、搬出間伐、更新伐等、鳥獣害防止施設等整備
- ※実績・新目標：R3～R6は実績、R7以降は見直した目標値を示す

林業産出額及び素材生産量の推移

◆林業産出額や民有林素材生産量は、ともに震災前（平成22）の実績を上回る。

・林業産出額（R5） 133.5億円（H22 129.6億円）

・素材生産量（R4） 726千m3（H22 557千m3）

◆近年の木材需要の高まりから、間伐を中心とした施業から、主伐や主伐後の再造林へと施業が移行している。

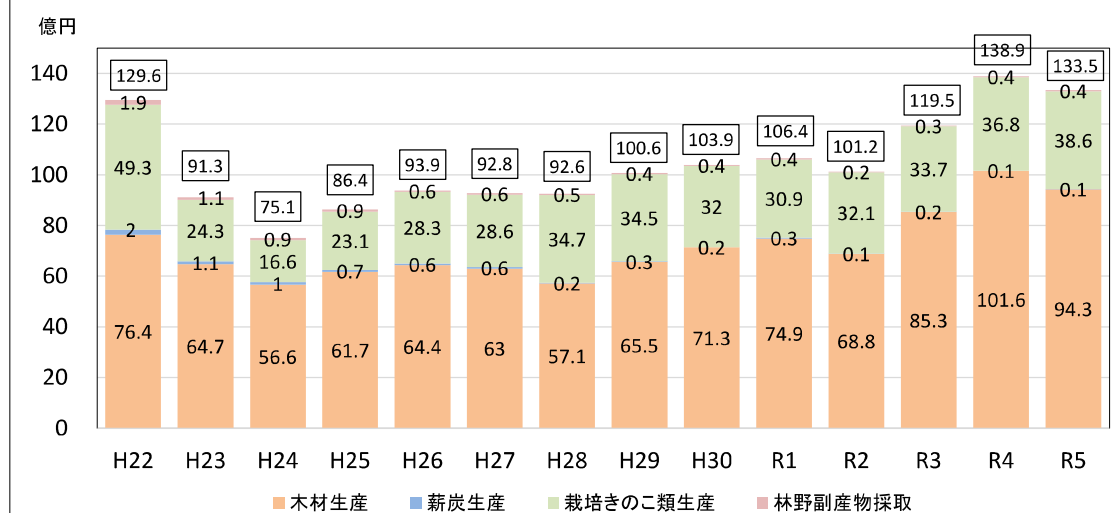
1 林業産出額の推移

〈林業産出額の推移〉

[億円（順位）]

	木材生産	薪炭生産	栽培きのご類	林野副産物採取	計
平成22年	76.4 (7)	2.0 (6)	49.3 (13)	1.9 (10)	129.6 (10)
令和2年	68.8 (8)	0.1 (31)	32.1 (18)	0.2 (33)	101.2 (13)
令和3年	85.3 (9)	0.2 -	33.7 (18)	0.3 -	119.5 (12)
令和4年	101.6 (8)	0.1 (20)	36.8 (16)	0.4 (27)	138.9 (9)
令和5年	94.3 (7)	0.1 (25)	38.6 (16)	0.4 (25)	133.5 (10)

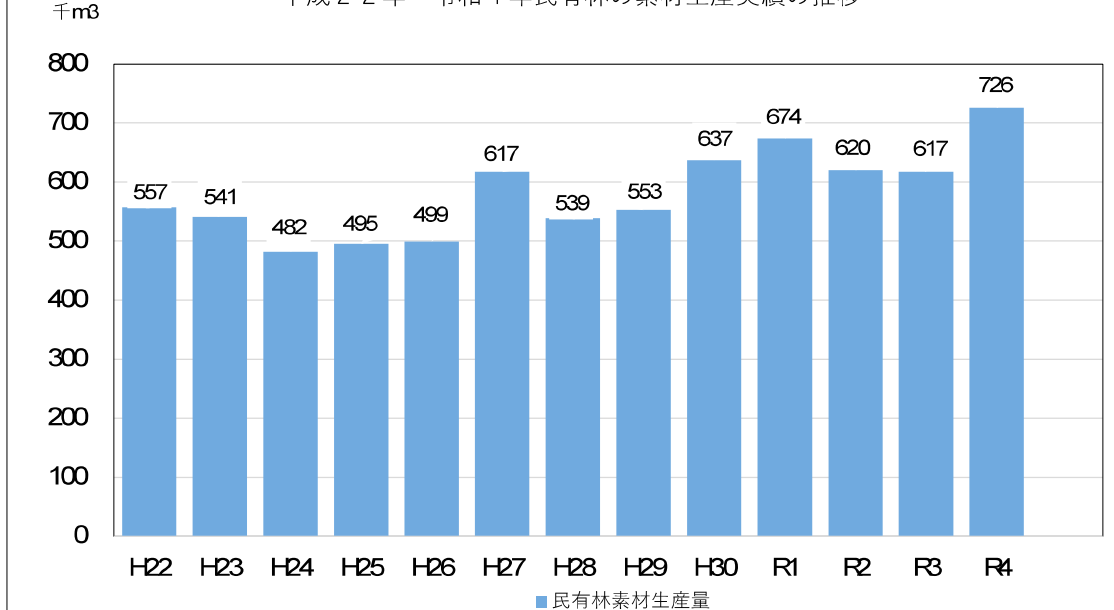
平成22年～令和5年林業産出額の推移



2 素材生産実績の推移

〈素材生産実績の推移〉

平成22年～令和4年民有林の素材生産実績の推移



令和3年度以降素材需要が増える要因となる施設等について

- ◆大規模製材工場…県内7施設で稼働中または稼働予定。
(原木消費量合計293千m3)
- ◆バイオマス発電施設…県内5施設で稼働中。
(原木消費量合計391千m3)
- ◆計画又は稼働中の施設における年間原木消費量は684千m3であり、県内素材生産量(R4 726千m3)の94%に相当。

1 製材工場

(単位：m3)

	施設数	需要量m3/年	備考
稼働中	2	90,811	
稼働予定	5	202,235	R12までの計画
合計 (A)	7	293,046	

2 バイオマス発電

(単位：m3)

	施設数	需要量m3/年	備考
稼働中	5	390,650	
稼働予定	0	0	
合計 (B)	5	390,650	

年間原木消費量合計(A)+(B)

683,696